

2011 AUTOBACS SUPER GT 第5戦
第40回インターナショナル ポッカ GT サマースペシャル
2011年8月20日(土)~8月21日(日)

決勝 レポート

87 Laps



場所: 鈴鹿サーキット / 天候: 雨 / コース: ウエット / 気温: 26°C / 観客動員数: 27,000 人

2011 年 SUPER GT シリーズ第5戦の決勝が行われる鈴鹿サーキット(三重県)はこの日、朝から小雨の降る一日となった。前日の予選はまずまずの結果に終わり、チームは表彰台を目指し出来る限りの対策を施し決勝に臨んだ。

8月21日(日)

<決勝 / 午後3時10分~>

雨の中、スタートが切られた。佐々木孝太がドライブする#62 R&D SPORT LEGACY B4は無難なスタートを切り、1周目はスタート順位と同じ3位で戻ってくる。3周目、S字で#33をパスして2番手に、8周目に1コーナーで#43をパスしてトップに立つ。佐々木は2位に20秒以上の差を付け、31周目ピットイン、佐々木から山野哲也に交代。山野も素晴らしい走りで2位を引き離す。



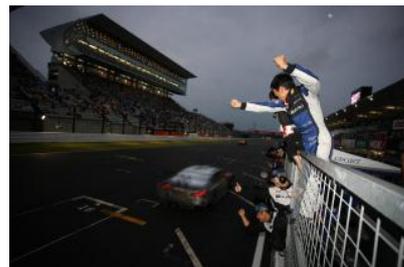
40周目、赤旗中断となり、これまでに築き上げた後続との-marginがリセットされてしまう。再スタート後、山野は無くなってしまった後続とのアドバンテージを必死に作る。50周を過ぎたあたりから路面が乾きだし、次のピットイン時のタイヤ選択がカギとなる。しかし、今にも雨が降り出しそうな空模様である。

58周目、最後のピットインで佐々木に代わる。チームの完璧な作業でコースイ



www.rdsport.net

ン。タイヤはドライタイヤを選択。トップでコースに戻るが、タイヤがまだ温まっていないので、#33にトップを奪われる。しかし、ラップタイムで#33を上回る佐々木の走りに誰も不安を感じない。5周以上のバトルの末、71周目、高速130Rでインから#33を抜き、そのまま引き離し、安定した走りでトップチェッカーを受ける。GT300クラス今季初優勝、夏の鈴鹿としては2年連続優勝という快挙を果たした。なお、500クラスは#1 ウイダーHSV-010が制した。



■本島監督 コメント



勝たなければいけないレースで勝つ事ができ満足です。夏の鈴鹿は特に勝つ事が難しいレースです。ここで2連覇出来たのも、素晴らしいドライバー、素晴らしいチームスタッフ、素晴らしい車、素晴らしいタイヤ、そして素晴らしい応援があってこそだと思います。富士重工業様、STI様の多大な御支援に感謝するとともに、御協力くださった関係各位の方々、また、雨の中で最後まで応援して下さいました多くのファンの方々にも お礼申し上げます。本当に有難うございました。

■山野 哲也 コメント



SUPER GTシリーズのなかで最長距離の鈴鹿ラウンドで優勝できて本当に嬉しく思います。しかも2年連続は格別な想いです。今回は予選Q2からウェットになり、勝算が低くなったと直感しましたが、想像以上にLEGACY B4のパフォーマンスはありました。担当したQ2は2番手で通過し、決勝のセカンドステントも最後まで速さを見せることができました。SUGOの悔しさも今回必要だった集中力につながったと思います。素晴らしいマシンと作戦を与えてくれたチームと、大勢のSUBARUファンに感謝しています。次回も上位に食い込めるよう、気持ちを引き締めてテスト、レースに臨みます。チーム一丸となって獲得した最高の優勝でした。

■佐々木 孝太 コメント



今回の鈴鹿ほど勝つと宣言して戦ったレースはないですし、チームスタッフ全員もそんなプレッシャーの中、誰ひとりミスをせず優勝を勝ち取ったことは、チームにとって凄く自信になったと思います。僕自身も2年連続の地元での優勝は、今までお世話になった方々や家族にも素敵なプレゼントができました。まだ残り3戦あるので、もう一度勝利を手に出れるよう、LEGACY B4をより強い車に仕上げたいと思います！

決勝の詳細に関しては SUPER GTホームページ <http://supergt.net/jp/>
またSUBARUモータースポーツニュース <http://www.subaru-msm.com/news/> もご覧ください

2011年8月21日
SUBARU LEGACY B4
TEAM アールアンドデースポーツ
<http://www.rdsport.net/>



www.rdsport.net